

【6年生 社会】「憲法9条 平和主義」

課題の設定：教科書「平和への誓い」を読み、取り組むことを見つける

情報の収集：平和のためにできること、されていることを調べる（教科書、ネット）

整理・分析：調べた情報から自分の考えを作る

まとめ・表現：「平和の誓い」を作成する（スライド）

パフォーマンス評価「S」:

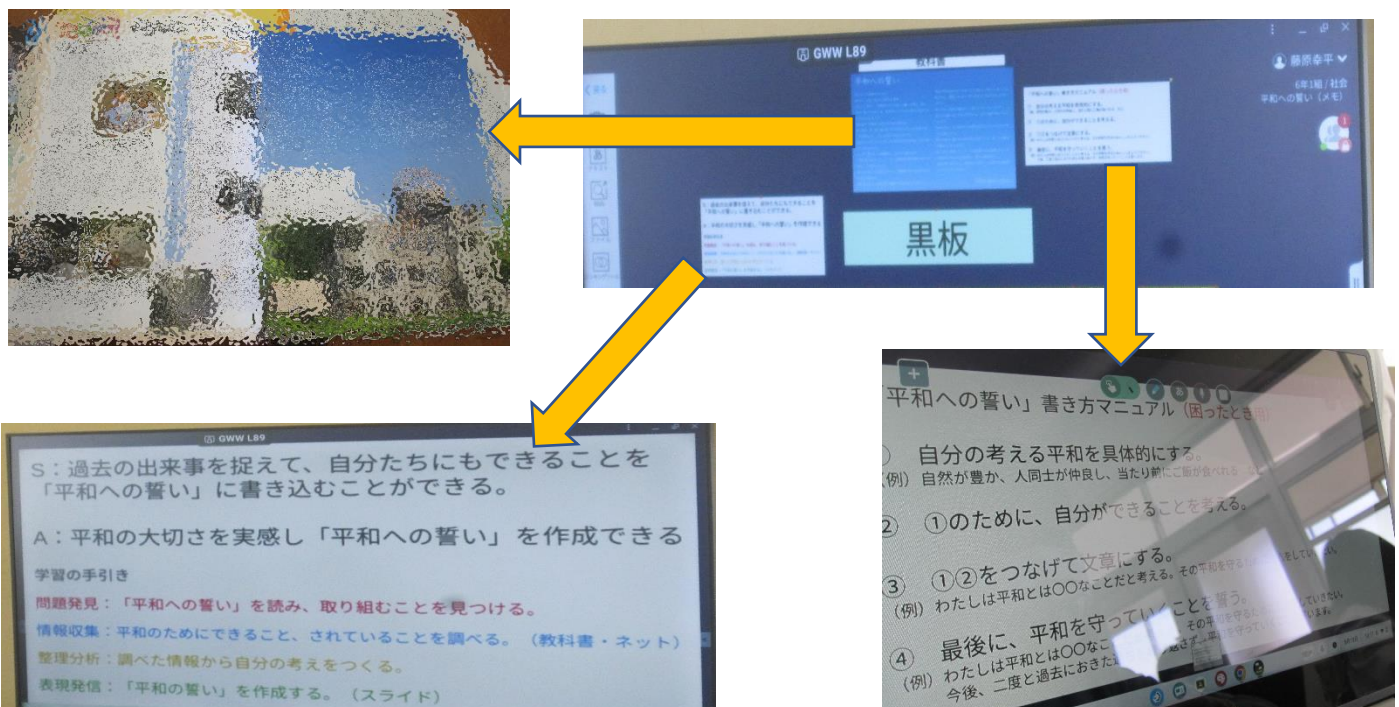
過去の出来事を捉えて、自分たちにもできることを「平和の誓い」に書き込むことができる

パフォーマンス評価「A」:

平和の大切さを実感し「平和の誓い」を作ることができる

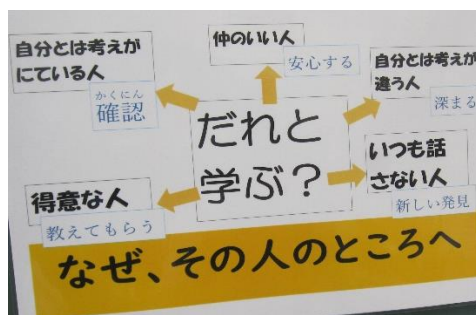
課題設定 ・ 情報の明示

本時の学習の流れとパフォーマンス評価、課題のもとになる「教科書」と、「困った人用のマニュアル」の明示



協働学習の流れ

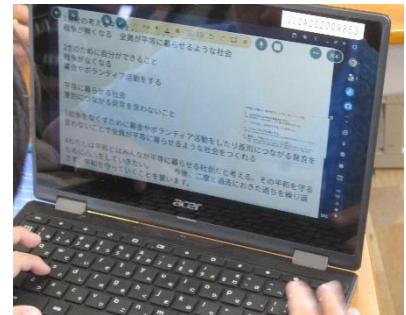
なぜその人と学ぶのか、を意識



自分で選ぶ、仲間も方法も



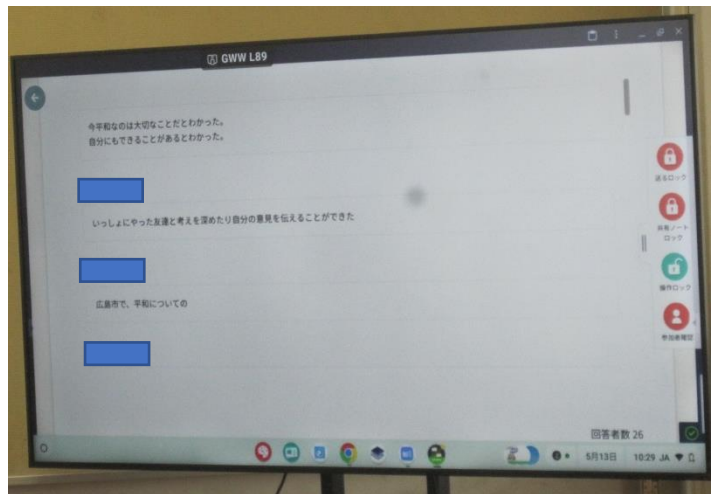
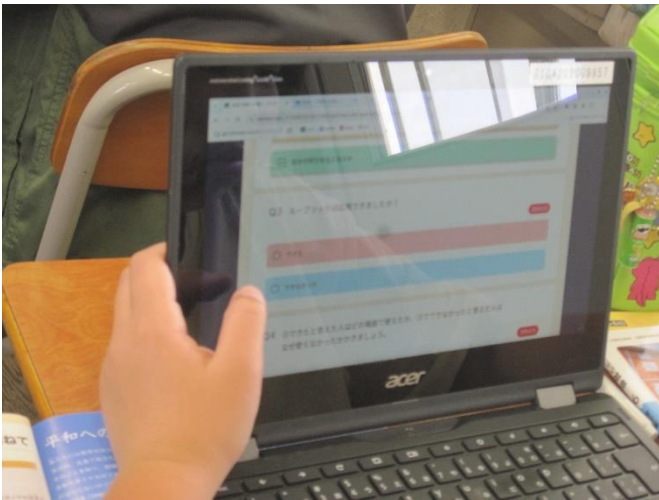
他者からの気づきも反映させる



振り返り 自己評価

(選択式) 明示した基準に到達できたか自分で判断

(記述式) 振り返った内容は即みんなで共有



【授業者、観察者の振り返り】

- ・タブレットの操作については十分に経験を積ませているので、発問や指示を出したらすぐに全員が学習に入ることができる。
- ・パフォーマンス評価「A」には多くの子どもが到達できた。「S」に到達させるために発問やヒントを伝えているが、その意図は伝わったとはいえない。「A」からさらに深く…という子どもがあまり見られない。
- ・つかみ、の重要性を感じた。「何のために『平和の誓い』を作るのか 作った後にどう活用するのか」を、子どもたちがイメージできていれば、「S」をめざしてSTFな学びを進める子どもはもっと増える。
- ・協働学習のペアの作り方 「なぜ、その人のところへ」を示しているが、時には事前に各自の考えをリサーチしておいて、教員主導でペアを作ることにも一考。
- ・時間の配分も要検討。授業の終盤で全員が「A」に辿り着くような計画を作ると、最後に知識を与えて授業を終えてしまうことになりがち。授業中盤で「A」への到達状況を把握するのも一考。そして早々に「A」に辿り着いた子どもが「S」に向かうコツやヒントを、教員が用意する or 友だちの考えから取りに行く or 更に調べることで「S」に向かわせる。